紀　　要

第 9 号

1996. 3

財団法人滋賀県文化財保護協会

目　　次

序
‘廃棄’を考える－貝塚出土資料の検討にあたっての試論－〔鈴木康二〕 …… 1
粟津湖底遺跡第3貝塚の貝類採取活動－セタシジミの成長速度と年齢構成－〔稲葉正子〕…… 11
大津市粟津湖底遺跡出土の錘〔瀬口眞司〕 …… 16
箆状木製品の用途について〔松澤　修〕 …… 25
縄文晩期土器棺墓の調査方法について－近畿地方の場合－〔中村健二〕 …… 38
近江における弥生社会の理解にむけて－その方法と課題－〔大崎康文〕 …… 42
長浜市域における弥生時代の石器－今川東遺跡出土石器を中心に－〔稲葉隆宣〕 …… 51
石組みの煙道を持つカマド－古代の暖房施設試論－〔上垣幸徳・松室孝樹〕 …… 57
集落遺跡出土の鉄製品についての研究ノート〔田井中洋介〕 …… 79
近江へのアプローチ・その3－野洲・栗太をフィールドに－〔近江歴史クラブ〕 …… 85
1．野洲川流域の前・中期古墳について〔鈴木桃代〕 …… 89
2．栗太・野洲における後期古墳の類型的把握
－古墳時代システム論への墓制的アプローチ－〔細川修平〕 …… 94
3．集落遺跡から見た古墳時代の特質－古墳時代システム論への予察－〔細川修平〕 …… 102
4．栗太・野洲郡における掘立柱建物データの抽出と分類〔神保忠宏〕 …… 110
5．近江国の古代駅路と官衙遺跡について〔内田保之〕 …… 122
6．古代における琵琶湖の湖上交通についての予察〔畑中英二〕 …… 130
7．田原道をめぐる二つの地域〔重岡　卓〕 …… 136
8．近江における玉造りをめぐって〔中村智孝〕 …… 149
9．栗太・野洲郡における古代の土器様相〔畑中英二〕 …… 157
10．鉄鉱石の採掘地と製鉄遺跡の関係についての試論
－滋賀県の事例を中心に－〔大道和人〕 …… 164
栗太・野洲郡のまとめ …… 179
大津北郊白鳳寺院の造営計画（その1）〔仲川　靖〕 …… 185
古代遺跡と出土文字資料〔濱　　修〕 …… 200
石山国分遺跡出土瓦の覚書〔平井美典〕 …… 208
巡礼者の宿－鴨田遺跡出土の巡礼札より－〔重田　勉〕 …… 215
焼物二話〔稲垣正宏〕 …… 220
蒲生稲寸氏について－近江古代豪族ノート5－〔大橋信弥〕 …… 224
律令神話に於ける農業神について〔造酒　豊〕 …… 233

日本古代の対外関係史の一様相
　－日本古代史研究ノートあるいは覚書その２－〔芝池信幸〕 …… 238
遺跡の撮影〔阿刀弘史〕 …… 243
新聞報道にみる文化財保護25年－新聞記事データベースの作成と利用－〔中川正人〕 …… 252

集落遺跡出土の鉄製品についての研究ノート

田井中　洋　介

1．はじめに

我が国に、鉄製品が初めて大陸からもたらされたのは縄文時代後期に遡るとされる。[1] 鉄製品の使用は九州から西日本各地へと次第に普及していくが、近畿地方においても弥生時代前期から中期、そして後期へと鉄製品を出土する遺跡は増加していき、[2] 古墳時代に至っては古墳の副葬品として多量の鉄製品が埋納されるようになる。

しかしながら集落遺跡における鉄製品の出土は、古墳時代においても多量とは言えず、近畿地方では逆に減少するとの指摘もある。[2] そのために古墳時代の鉄製品についての研究は、西日本では古墳の副葬品に関する研究が盛んであるのに比べて、集落遺跡出土の鉄製品に注目した研究は乏しい。一方、東日本においては1960年代に原島礼二氏によって全国的な資料集成が行われたのち[3]にも、近年では古庄浩明氏による南関東地域の古代集落出土の鉄製農工具に関する集成的研究や、[4] (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所・東日本埋蔵文化財研究会・東海考古学フォーラムによる鉄製品を含めた東日本の農具集成が行われている。[5]

筆者はこれまで滋賀県内出土の石包丁と木包丁の資料集成を行ってきたが、[6] これに後続する時期の収穫具として鉄鎌の資料集成を行う意図もあり、今回滋賀県内出土の原始～古代の鉄製品の資料集成を試み、併せて若干の検討を行うものである。

2．資料収集の方法

資料収集にあたっては、県内において刊行されている発掘調査報告書類を網羅するように努め、報告書が未刊行の調査については、鉄製品の時期がほぼ限定できる良好な資料のうち、管見に触れたもののみ収録したのが第１表である。集落遺跡出土品の集成であるので、古墳や土坑墓などの墳墓に伴う資料は基本的に除外している。また、遺構出土遺物の中には、本来その遺構に伴うものと、単に流入土に含まれるものとがあるが、報告書の記述から両者を識別することは容易でないため、特に区別せずに表に記載した。収録する器種は、建築部材かと考えられる釘・かすがいを除いた全てのものを採録するよう努め、鉄製品の器種および時期は概ね報告書の既述に従ったが、一部筆者の判断で変更している。

本稿で取り扱う時期は９世紀以前のものとした。滋賀県内においては古墳時代後期以降、竪穴住居から掘立柱住居への住居形態の変化が地域によって時期差を持ちながら進行しているため、[7] ９世紀以降については集落遺跡出土の鉄製品を良好に抽出しがたいという技術的な理由によるものである。なお、資料収集にあたっては滋賀県埋蔵文化財センターにおいて鉄製品などの保存処理に長年従事してこられた中川正人氏からの資料提供を受けた他、大道和人氏から有益な御教示を得た。記して感謝いたします。

3．各時期の様相

1）弥生時代

管見によれば滋賀県において最古の鉄製品を出土した遺跡は、能登川町正楽寺遺跡である。河川跡から板状鉄斧が出土し、弥生時代中期初めの遺物とされるが、詳細は不明である。八日市市内堀遺跡では鉄鏃が弥生時代中期中頃～後半の方形周溝墓の周溝底から出土したと報告されている。また、守山市二ノ畦・横枕遺跡では、昭和63年の第11次調査の際に弥生時代中期末の土坑から鉄鎌の破片が、平成6年の第25次、第26次調査では竪穴住居から弥生時代中期末の鉄鏃が出土しており、注目すべき遺跡であるが、いずれも未報告資料であるため詳細は不明である。

弥生時代後期の事例としては、大津市南滋賀遺跡（昭和58年度発掘調査）の竪穴住居の貯蔵穴埋土から出土したヤリガンナ（弥生時代後期後半）があり、弥生時代終末の庄内式併行期の資料としては、栗東町高野遺跡の竪穴住居から出土した2例（鉄鏃）、能登川町斗西遺跡の溝出土品（鉄鏃）、方形周溝墓出土品では大津市坂口遺跡の出土例（鉄鏃）がある。

以上のように鉄製品を出土する弥生時代の遺跡は、弥生時代中期～後期に点々と見られ、終末期にかけて増加するようである。また、器種では鉄鏃が多いのが特徴である。

2）古墳時代前・中期

昭和59年の栗東町岩畑遺跡の発掘調査では、古墳時代前期～後期の竪穴住居群から鎌、刀子、鉄鏃などの鉄製品が出土したとされ、特に古墳時代後期には半数近くの住居から鉄製品の出土があったとのことであるが、残念ながら未報告資料であり詳細は不明である。また古墳時代前期の事例として、栗東町辻遺跡の竪穴住居からヤリガンナや刀子が出土したとされるが、同じく詳細不明である。その他には栗東町岩畑遺跡[8]の落ち込み出土の鉄鏃、守山市石田三宅遺跡の流路出土の袋状鉄斧などがあるが、竪穴住居からの出土例でないため、良好な資料とは言いがたい。この時期には、現時点で収集した資料による限りでは、鉄製品を出土した遺跡が野洲川流域に集中している。

古墳時代中期には前述の岩畑遺跡の他、余呉町桜内遺跡の竪穴住居から刀子が出土している。桜内遺跡ではこの他にも袋状鉄斧や鉄鏃が出土しているが所属時期が不明である。また、守山市岡遺跡では性格の不明な土坑から鎌（？）が出土している。安曇川町南市東遺跡では溝から刀が出土しているが、祭祀的な遺構かと推定されており、集落遺跡出土のものとは見なさないでおきたい。

古墳時代前・中期には、竪穴住居出土の良好な報告例が乏しく詳細は不明であるが、鉄製品を出土する集落遺跡の数は、弥生時代終末期と比べてあまり増加しないようである。器種では鉄鏃の比率が減少し、刀子や袋状鉄斧の出土例が新たに見られる。

3）古墳時代後期

古墳時代後期には、集落遺跡からの鉄製品の出土事例の増加が著しい。栗東町岩畑遺跡では既述の昭和59年調査地の他にも、鉄鎌が5世紀末頃の竪穴住居から2点、7世紀前半の竪穴住居から1点出土している。鉄鎌の出土例はこの時期以降に顕著であり、古墳時代後期の竪穴住居出土

	所在地	遺跡名	出土地点	器種	時代	調査主体	文献	発行年
弥生時代	能登川町	正楽寺	河川跡	斧	弥生時代中期初め	町	正楽寺遺跡現地説明会資料	1994
	八日市市	内堀	5号周溝墓周溝	鏃	弥生中期中頃～後半	市	八日市市文化財調査報告（2）	1983
	守山市	横枕	土坑ＳＫ１	鎌	弥生中期末	市	乙貴第３９号	1988
	守山市	二ノ畦・横枕	竪穴住居	鏃	弥生中期末	市	現地説明会資料（第２５次調査）	1994
	守山市	二ノ畦・横枕	竪穴住居	鏃	弥生中期末	市	現地説明会資料（第２６次調査）	1994
	大津市	南滋賀	竪穴ＳＢ０４	ヤリガンナ	弥生後期後半	県	南滋賀遺跡	1993
	栗東町	高野	竪穴ＳＨ１	鏃・不明品	弥生終末期	県	高野遺跡発掘調査報告書	1986
	栗東町	高野	竪穴ＳＨ４	鏃	弥生終末期	県	高野・辻遺跡発掘調査報告書Ⅱ	1990
	能登川町	斗西	溝ＳＤ１２下層	鏃	弥生終末期	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第２７集	1993
	大津市	坂口	方形周溝墓周溝	鏃	弥生終末期	県	坂口遺跡発掘調査報告書	1975
古墳時代前・中期	栗東町	岩畑	竪穴住居	鎌・刀子・鏃	４～５世紀	町	栗東の歴史第１巻	1988
	栗東町	岩畑	落ち込み２	鏃２点	４世紀	県	栗東町高野遺跡発掘調査報告書	1987
	栗東町	辻	竪穴	ヤリガンナ	４世紀	町	１９８９年度年報	1990
	栗東町	辻	竪穴	刀子	４世紀	町	１９９３年度年報	1994
	守山市	石田三宅	流路ＳＤ３０	斧	４世紀	県	石田三宅遺跡発掘調査報告書Ⅱ	1991
	守山市	石田三宅	旧河道ＳＲ３	鏃	４～６世紀？	県	石田三宅遺跡発掘調査報告書Ⅰ	1988
	余呉町	椿内	竪穴８１ＳＢ３４Ｗ？	刀子	５世紀	県	北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書ＸＩ	1989
	余呉町	椿内	不明	斧・鏃	？	県	北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書ＸＩ	1989
	守山市	岡	土坑ＳＫ１	鎌？	５世紀	市	守山市文化財調査報告書第１９冊	1985
	安曇川町	南市東	第１１次調査　溝	刀	５世紀後半	町	南市東遺跡発掘調査概報	1980
古墳時代後期	栗東町	岩畑	竪穴住居	鎌・刀子・鏃	６～７世紀	町	栗東の歴史第１巻	1988
	栗東町	岩畑	竪穴ＳＨ３	鎌２点	５世紀末	県	栗東町高野遺跡発掘調査報告書	1987
	栗東町	岩畑	竪穴ＳＨ１	鎌	７世紀前半	県	栗東町高野遺跡発掘調査報告書	1987
	五個荘町	平阪	竪穴ＳＢ０１	鏃	６世紀後半	町	木流遺跡・平阪遺跡	1985
	近江八幡市	後川	竪穴ＳＨ１	鎌	７世紀初頭	市	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＩＩ	1992
	高月町	柏原	第９竪穴住居跡	鏃	７世紀前半	県	国道３６５号線バイパス発掘調査報告書Ⅰ	1980
	高月町	井口	不明	斧	古墳？	県	国道３６５号線バイパス発掘調査報告書Ⅱ	1984
	大津市	南滋賀	竪穴ＳＢ１	鏃	６世紀末	県	滋賀県文化財調査年報昭和５１年度	1978
	能登川町	中沢	竪穴住居	鏃	６世紀末	県	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ＸＩＩ－６	1986
	五個荘町	東宮荘	竪穴ＳＢ０１	鏃	７世紀初頭	町	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ＸＩＩ－６	1986
	浅井町	祇園寺・荘厳寺	第１竪穴住居跡	鏃	７世紀初頭	県	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ－１	1979
	浅井町	祇園寺・荘厳寺	第２竪穴住居跡	不明品	７世紀初頭	県	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ－１	1979
	長浜市	柿田	竪穴ＳＨ３４	刀子	６世紀末	県	柿田遺跡発掘調査報告書	1989
	長浜市	柿田	不明	ヤリガンナ・鎌	？	県	柿田遺跡発掘調査報告書	1989
	能登川町	横受	竪穴住居	Ｕ字形鋤先	６世紀末～７世紀初	町	能登川町横受遺跡（第Ⅱ次）現地説明会資料	1993
	能登川町	横受	竪穴ＳＢ０６	Ｕ字形鋤先	６世紀中～後半	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	能登川町	横受	竪穴ＳＢ０３	刀子	７世紀前半？	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	能登川町	斗西	竪穴住居ＳＴ４５	紡錘車・不明品	６世紀後半	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第２７集	1993
	能登川町	斗西	竪穴住居ＳＴ４４	不明品	６世紀後半	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第２７集	1993
	能登川町	斗西	ピットＰ１２７	鏃？	？	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第２７集	1993
	能登川町	斗西	竪穴ＳＢ０２	不明品	６世紀末	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第１０集	1988
	守山市	岡	竪穴ＳＨ４	刀子	６世紀	市	守山市文化財調査報告書第１９冊	1985
	守山市	小津浜	自然流路５	鏃・刀子	５～６世紀	県	仮収納保管業務　昭和６２年度概要	1988
	守山市	赤野井湾	包含層	鎌	古墳？	県	湖岸堤天神川水門工事赤野井湾遺跡	1986
	守山市	赤野井湾	溝ＳＤ３下層	鏃・刀子・鏃	６世紀以前	県	湖岸堤天神川水門工事赤野井湾遺跡	1986
	守山市	赤野井湾	不明	鏃・鎌	？	県	湖岸堤天神川水門工事２赤野井湾遺跡	1987
	長浜市	国友	自然流路ＭＩ	火打ち金具	５世紀後～６世紀前	県	北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ｘ	1988
	長浜市	国友	自然流路ＭＩ	鋳造斧	５世紀後～６世紀前	県	北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ｘ	1988
	栗東町	岡	Ｔ－２８トレンチ	鏃	７世紀前半	町	岡遺跡発掘調査報告書	1990
	栗東町	岡	Ｔ－２８トレンチ	刀子２点	７世紀	町	岡遺跡発掘調査報告書	1990
白鳳期以降	能登川町	横受	竪穴ＳＢ０４	紡錘車	７世紀末？	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	能登川町	横受	竪穴ＳＢ１０	刀子	８世紀前半	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	能登川町	横受	竪穴ＳＢ１８	刀子柄？	８世紀前半	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	能登川町	横受	竪穴ＳＢ１９	鎌	８世紀前半	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	能登川町	横受	溝ＳＤ０４	鎌	８世紀？	町	能登川町埋蔵文化財調査報告書第３２集	1994
	高月町	高月南	竪穴？	鏃	８世紀前半	町	滋賀文化財だより９９	1985
	今津町	日置前	竪穴ＳＨ６	鎌	８世紀	県	日置前遺跡	1995
	今津町	日置前	掘立ＳＢ４柱穴掘方	紡錘車	８世紀	県	日置前遺跡	1995
	今津町	日置前	３号竪穴住居	斧２・不明３	８世紀前半	町	日置前遺跡概要報告書－王塚地区の調査－	1995
	守山市	益須寺	竪穴ＳＨ９	斧	８世紀	市	守山市文化財調査報告書第３９冊	1990
	八日市市	上日吉	竪穴１トレＳＢ０１	鏃４～５点	８世紀前半	県	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ－２	1979
	八日市市	上日吉	掘立柱柱穴	鏃	７世紀後半	県	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ－２	1979
	安土町	内野	掘立柱建物柱穴掘方	鏃	奈良後半～平安初め	県	滋賀埋文ニュース第１７２号	1994
	高月町	井口	竪穴ＦＴ６	刀子	８世紀前半	県	国道３６５号線バイパス発掘調査報告書Ⅱ	1984
	高月町	井口	竪穴ＡＴ３	紡錘車２・刀子	８世紀前半	県	国道３６５号線バイパス発掘調査報告書Ⅱ	1984
	高月町	柏原北	竪穴ＣＴ３	Ｕ字形鋤先	８世紀中頃	県	国道３６５号線バイパス発掘調査報告書Ⅱ	1984
	中主町	光相寺	溝ＳＤ１４３０１	刀子	７世紀末～８世紀後	町	平成元年度中主町内遺跡発掘調査年報	1991
	中主町	光相寺	不明	鏃？	奈良～平安	町	平成３年度中主町内遺跡発掘調査年報	1993
	長浜市	柿田	竪穴ＳＨ５１	不明品	７世紀末	県	柿田遺跡発掘調査報告書	1989
	栗東町	手原	竪穴ＳＨ１	不明品２点	７世紀後半	町	手原遺跡発掘調査報告書	1981
	大津市	山の神	土坑	刀子２点	７世紀中葉	市	大津市埋蔵文化財調査報告書（９）	1985
	大津市	東光寺	溝？	鏃・釘	７世紀後～８世紀中	県	大津市東光寺遺跡発掘調査現地説明会資料	1983
	草津市	岡田追分	包含層？	鏃	８～１０世紀	県	滋賀県文化財調査年報昭和５０年度	1977
	草津市	矢倉口	井戸ＳＥ０５	鏃・刀子	９世紀	県	矢倉口遺跡発掘調査報告書	1987

第１表　　滋賀県内集落遺跡出土鉄製品一覧表

例として、その他に五個荘町平阪遺跡、近江八幡市後川遺跡、高月町柏原遺跡がある。

鉄鏃もこの時期のものは出土例が多く、大津市南滋賀遺跡、栗東町岩畑遺跡、能登川町中沢遺跡、五個荘町東宮荘遺跡、浅井町祇園寺・荘厳寺遺跡で竪穴住居からの出土が報告されている。刀子も長浜市柿田遺跡、能登川町横受遺跡、守山市岡遺跡、栗東町岩畑遺跡と出土事例が多く、そのほかの器種では、能登川町斗西遺跡の紡錘車や能登川町横受遺跡のU字形鋤先がある。

竪穴住居以外からの出土遺物では、守山市赤野井湾遺跡の溝から出土した古墳時代後期以前のものとされる鉄鎌・鉄鏃・刀子や、守山市小津浜遺跡の流路出土の鉄鎌・刀子があるが、その性格が明確でないのは残念である。長浜市国友遺跡の溝から出土した火打ち金具と鋳造鉄斧は、伴出土器から判断して古墳時代中期後半～後期前半の遺物と報告されているが、県内に類例が乏しい器種であり評価が難しい。

4）白鳳期以降

この時期には、竪穴から掘立柱建物への住居形態の変化がかなり進行するため、鉄製品出土の遺跡数を前代と単純に比較することは方法論的に問題があろうが、竪穴住居からの鉄鎌の出土は能登川町横受遺跡と今津町日置前遺跡で知られている。刀子と紡錘車についても前代に引き続き出土例が見られるほか、守山市益須寺遺跡と今津町日置前遺跡においては奈良時代の竪穴住居から袋状鉄斧の出土がある。鉄鏃の出土は、竪穴住居からの出土としては八日市市上日吉遺跡で報告されるのみであり、前代に比べて遺跡数の減少が著しい。白鳳期から奈良時代にかけては、集落遺跡からの鉄製品の出土は一定量見られるが、鉄鏃の出土遺跡数の比率が減少することを特徴としておきたい。

5）小　結

以上の変遷をまとめれば、以下のようになろう。

①滋賀県内出土の鉄製品は弥生時代中期のものを初見とし、弥生時代終末期にかけて増加する。器種は鉄鏃が大半を占める。

②古墳時代前・中期には鉄製品の出土する遺跡はあまり多くない。

③古墳時代後期には鉄製品を出土する遺跡が増加し、鉄鏃、鉄鎌、刀子を出土する事例が多い。

時期 器種	弥生時代	古　墳 前・中期	古墳後期	白　鳳・ 奈良時代
鏃	2	1	5	1
鎌		1	4	2
斧				2
刀子		3	4	2
紡錘車			1	2
その他	ヤリガンナ1	ヤリガンナ1	鋤先1	鋤先1

第2表　竪穴住居から鉄製品を出土した遺跡数

④白鳳期～奈良時代には鉄製品の出土遺跡は前代に引き続いて一定数見られるが、鉄鏃出土の遺跡の比率が減少する。

4．若干の検討

前節で見たように、弥生時代に出土鉄製品の大半を占める鉄鏃は、古墳時代に至ってその比率

を下げる。西日本においては弥生時代の集落遺跡から鉄鏃を出土する事例が多いのに対して、古墳時代には集落からのまとまった出土例を欠く傾向が松木武彦氏によって指摘されている[9]が、滋賀県の状況もこれに類似するものと考えられる。鉄鏃は白鳳期以降には更にその比率が減少するなど、農工具とは異なる様相を示す器種と言えよう。

南関東地域においては、5世紀から10世紀の集落遺跡における鉄製農工具の出土遺物数は、1遺跡あたり3.32点という数字が古庄氏によって示されている（鉄鏃、刀子は除いた数）[4]。土壌条件による鉄製品の遺存状況や、調査面積などの点で違いがある地域との数字の比較はひとまず措くが、3.32点のうちで鎌が2.13点と多く、鍬の0.21点、紡錘車の0.41点、斧の0.2点を圧倒する状況にあることは滋賀県の古墳時代後期の状況に近い。また南関東で1遺跡あたり0.49点出土している手鎌は、滋賀県内においては出土例を確認できなかった。

時期的変遷については、南関東では一部の器種を除いて8世紀に出土量が増えるのに対して、滋賀県では既述のとおり古墳時代後期に増加の大きな画期がある。滋賀県において製鉄の開始が確認できるのは現時点では7世紀初め頃であるが[10]、集落遺跡出土の鉄製品の様相から判断すれば、やや遡る6世紀後半代には鉄製品の需給関係に変化が生じた可能性がある。古墳時代後期は小古墳が「群集墳」と称されるように多数築かれた時期でもあるが、小古墳の造営主体となった階層による鉄製品の所有が進展した結果として、集落遺跡における鉄製品の出土量が増加するものと推測しておきたい。

5．まとめにかえて

以上、いささか乏しい資料に基づいて叙述してきたが、今回の資料集成には不備な点が多く、未報告資料を中心に多くの遺漏があると思われる。今後も資料を集めていく過程で見解を整理していきたい。また、古墳に副葬された鉄製品の集成も行って、対比させる作業も今後の課題である。

㈶滋賀県文化財保護協会は設立以来25年に渡って、県内各地で発掘調査を実施してきた。そのうちの大半については発掘調査報告書が刊行されており、我々はその調査成果を知ることができるが、個々の発掘調査から得られる情報は断片的であるため、歴史学の資料として有効に活用されてきたとは言いがたい状況である。発掘調査によって得られた貴重な情報が多くの人々に最大限に活用されるように、我々はより一層の努力を払うことが必要であろう。本稿で試みた資料集成作業が、埋蔵文化財資料の有効活用にわずかばかりでも貢献できるところがあれば幸いである。

㈶滋賀県文化財保護協会の今後のより一層の発展を、一職員としてと同時に一県民として祈念いたします。

註

(1) 川越哲志『弥生時代の鉄器文化』（雄山閣出版　1993年）

(2) 禰宜田佳男「弥生時代に鉄器はどの程度普及していたか」（「争点　日本の歴史1」新人物往来社　1990年）

(3) 原島礼二『日本古代社会の基礎構造』（未来社　1968年）

(4) 古庄浩明「古代における鉄製農工具の所有形態－6世紀から10世紀の南関東を中心として－」（『考古学雑誌』第79巻　第3号　1994年）

(5) 『古代における農具の変遷－稲作技術史を農具から見る－』（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1994年）

(6) 田井中洋介「県内出土の石包丁をめぐって」（『紀要』第2号　滋賀県立安土城考古博物館　1994年）
田井中洋介「県内出土の石包丁をめぐって（その2）」（『紀要』第3号　滋賀県立安土城考古博物館　1995年）

(7) 大崎哲人「滋賀県下における掘立柱建物集落の成立契機について」（『紀要』第2号　財団法人滋賀県文化財保護協会　1989年）

(8) 発掘調査報告書では高野遺跡として報告されているが、現在の遺跡地図では岩畑遺跡の範囲に含まれる地点の発掘調査であるため、本稿では岩畑遺跡出土遺物として取り扱う。

(9) 松木武彦「古墳時代前半期における武器・武具の革新とその評価－軍事組織の生成に関する一試考－」（『考古学研究』第39巻　第1号　1992年）

(10) 丸山竜平・濱　修・喜多貞裕「滋賀県下における製鉄遺跡の諸問題」（『考古学雑誌』第72巻　第2号　1986年）

編集後記

この冬は、久しぶりに雪の多い年となり、外での調査では寒さに堪える日々を過ごされたことと思います。今年は当協会設立25周年にあたり、日頃の調査や普及活動に加え、安土城考古博物館で、企画展示『いにしえの渡りびと－近江の渡来文化－』や、それと関連したシンポジュームを実施してまいりました。本紀要も25周年ということで、例年にくらべて多くの論考が集まりました。つきましては、多くの方からのご叱正とご指導を賜れば幸いです。　平成８年３月

平成８年３月

紀　要　第９号

編集・発行　財団法人　滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印刷・製本　富士出版印刷株式会社
大津市札の辻４－20
Tel(0775)23-2580 Fax(0775)24-6668